

次なる一手 その2

2月になりました。高校入試も新制度になり、例年ならこの時期にあったI期選抜がなくなりました。特色選抜として、3月上旬3月4日に、前期入学者選抜として、全員が学力テストを受験し、3月5日に、特色選抜として、面接と実技試験を課すようになっております。

中学生にとって、昨年とこの時期の雰囲気はだいぶ変わったのでしょうか。このことの検証は、ぜひ6月から始まる入学者選抜調整会議において、共有していただきたいと思います。

単純に、教育を行うとき、しっかりと学習する学習の総量を担保することは大切なことだと考えます。人材を早く確保するために、学習の成果と検証を怠っていると、いつの間にかその時勝負のようなことになり、受験における結果重視主義や有名大学への合格者数のみで学校を評価する風潮が生まれます。

その学習の動機や課程や、様々な取り組みにおける研究と検証の積み重ねが教育のたまものなのであり、そのことを理解しないと大変なことになると考えます。

私の同級生にも、功成り名を遂げたものがたくさんいますが、その全員がその成功を遂げる課程の中で、すべてが素晴らしい取り組みを行ってきたとは限らないのです。結果的に収入が安定し、裕福な老後を迎えることになっても、若い時の生活がだらしく、そのことから脱出しようともがいていた時もあるのです。その契機になった人と人との出会いに救われていることが大いにあるのです。

しかし、様々な時の流れの中のエピソードとなる出来事に遭遇した時のその人間のスタンスほど重要なことはありません。そのスタンスによって人は救われるのかもしれないと思うときもありました。

そのスタンスとは、自分で決めた3通りくらいの変わらないスタンスのことです。例えば、人との約束はきちんと守るとか、いつでもどこでも謙虚でいるとか人の話をきちんと聞くとかというようなことです。

また、一区切りついた時にそれまでの道程を振り返った時、これまでの流れのままに進んでいくとは限りませんので、その次にどこを目指して進むのかをもう一度確認することが大切です。

地域の子供たちは、きちんと大人を見て育ちますので、こんな大人になるなどというような大人になることはあまりないので、そんな視点をはぐくむことが一番大切なことかもしれません。

効率よく要領よく生きることが一番良いことでもないようで、その時々の人々のスタンスによってどうでも変わっていくことが多いと考えます。(続く)

